

ユニマツトマリーナオーナー会の皆さまへ

台風への備えは万全ですか？

2018年の台風21号、24号、2019年の台風15号、19号発生の際はユニマツトマリーナオーナー会でも多くの加入者様が被害に遭われました。

ここ数年は大きな台風が発生しておりませんが、昨今の物価高、円安の影響もあり、台風が直撃した場合、過去の被害を大きく上回る損害が発生すると予想されます。台風の襲来は回避できませんが、対策を講じることで被害を最小限に抑えることができます。正しい知識をもって台風シーズンを乗り越えましょう。

【台風情報に対する知識】

台風が西側にいるとき危険大

1

台風は巨大な空気の渦巻きになっており、地上付近では、上から見て反時計回りに強い風が吹き込んでいます。

2

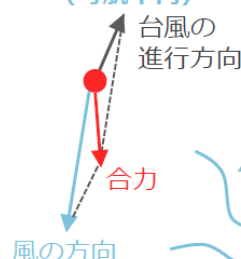
進行方向に向かって右の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため風が強くなります。

3

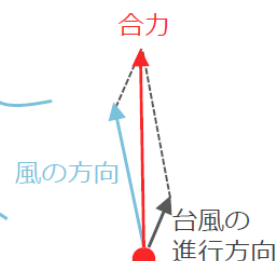
逆に左の半円では、台風自身の風が逆になるので、右の半円に比べると風速がいくぶん小さくなります。

自身の位置の西側を台風が通るときのほうが、強風が吹きやすくなります。

3 進行方向左側の半円
(可航半円)



2 進行方向右側の半円
(危険半円)



【風災被害を軽減するためのポイント】

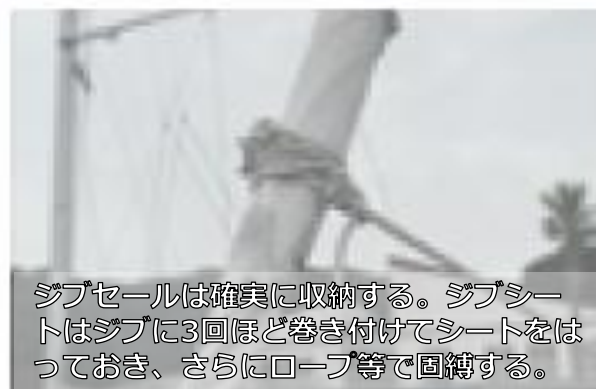
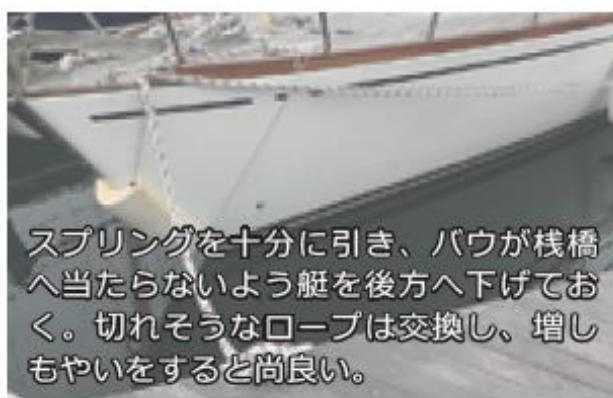
◆日ごろから実施する対策◆

- ☐ 定期的なメンテナンスを行い不良箇所を修繕する
- ☐ 戸締りをきちんとする
- ☐ 船の上や桟橋に物を放置しない
- ☐ 停泊マリーナとの連携をしっかりとる
- ☐ 係留ロープに切れやほつれがないか確認する
- ☐ 係留ロープが艇の大きさや重さに対して適正なものか
- ☐

◆台風襲来直前に実施する対策◆

- ☐ アウトリガーをしまう
- ☐ セイルをたたむ
- ☐ 係留のロープを増やす
- ☐ ロープの擦れる部分を補強する
- ☐ フェンダーを設置する
- ☐ フライングデッキのカバーをしっかりと固定する
- ☐ 固定されていない荷物を撤去する

【正しい台風対策の例】



【台風事故事例】

※あくまで一例となります。実際のお支払いは船の種類やグレード、事故状況により異なります。

	過去の台風事故事例	支払保険金
1	陸置艇がセールほか損傷	123万円
2	エンクロージャーカバーが破損	400万円
3	アウトリガー破損	88万円
4	ロープがちぎれ桟橋へ接触	86万円
5	ジブセールとリーチャー破損	486万円
6	ドジャーにほつれと穴あき	33万円
7	強風でメインハリヤードがゆるみ隣の船のマストにからみ船同士が接触	522万円
8	係留しているバースに接触	70万円
9	エンクロージャー、TVアンテナの破損	318万円
10	ブームバンク及びシフト等が破損した	131万円

損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 <公式ウェブサイト> <https://www.sompo-japan.co.jp/>

SOMPOグループの一員です。

お問い合わせ先